

※全体の考え方

(1) ビジョンの基本構成、伝え方

- ▶ 全体構成の整理が必要。(国家戦略に倣った章立てとする必要はない)
- ▶ ポスターなどの絵でビジョンを表現する。
- ▶ ビジョンの説明やイメージ、具体的にやるべきことを記載。
- ▶ 結果だけを示すより、丁寧な説明の方が市民に納得してもらえる。
- ▶ 札幌市民の生物多様性に対する意識は低いわけではないが、伝え方が重要。(身近なトピックから、コラムをかみ砕いて伝える等)
- ▶ 危機感を出しすぎるとネガティブに捉えられるので「札幌には自然がたくさんあって好き」という感覚を大事にできる伝え方とする。
- ▶ なぜこのような政策なのかをビジョンで明確に示す。(答えは複数でも良い)
- ▶ 最初に札幌市の魅力から始まるべき。
- ▶ 入部分に札幌市の特徴を記載し、後にしっかりとした情報を記載する。
- ▶ 最初に身近な生き物や自然の特徴が簡単に述べられていると、課題や全体的な話につながりやすいのではないか。
- ▶ 大事なことは最初と最後の両方にあるべき。

(2) 取り入れる考え方、視点

- ▶ 気候変動による生態系の変化と生態系保全の考え方(変化への対応、人為的な管理による保全)
- ▶ SDGs の視点、循環型、持続可能性の視点(13 気候変動に具体的な対策を、14 海の豊かさを守ろう、15 陸の豊かさを守ろう、など)
- ▶ 温暖化・気候変動の視点(再生可能エネルギーの需要と生物多様性保全との調整、気候変動対策と生物多様性の回復・維持は相互依存であること)
- ▶ 他自治体の生物多様性地域戦略の考え方を参考に。
- ▶ 心理的・身体的に影響する身近な自然環境の回復・維持の考え方。
- ▶ 四季の魅力(例えば、春の芽吹き、過ごしやすい夏、紅葉、雪)と生物多様性の繋がり発信。
⇒札幌市の魅力「四季の変化がはっきりしている」を生かし、良いところ、面白いところが原動力になるように。
- ▶ 生態系サービスの社会・文化的側面の評価視点(アイヌの自然観、「自然と調和する」感覚等)
- ▶ Eco-DRR「生態系を活用した防災・減災」の視点(地域の価値を高める効果も期待)
- ▶ 防災の視点
⇒生物多様性と防災を一緒のベースで考え、自然はコントロールできないので自然との共存のために保全が必要である事を盛り込む。
- ▶ 共生の考え方(多様な生物と負の影響を極力与えないまちづくり、身近な動植物などとの出会い、美しさ、面白さ、魅力を実感する機会の創出)
- ▶ 札幌市は消費地で都市部という面があり、生物多様性に大きく影響を与えるという事を認識すべき。
- ▶ 身近な行為が生物多様性の破壊にも回復維持にもなることを伝える。
- ▶ 都市部である札幌として、世界を考えた内容を盛り込む。
- ▶ 身近なこととの関わりがわかる事例紹介。
- ▶ 札幌市独自のビジョンという考え方。
- ▶ 企業の事業やイメージに関わり重要なことという紹介。

第1章 生物多様性さっぽろビジョン改定の背景

1 生物多様性に関する最近の動向

- ▶ 世界、国、札幌市の順番を変え、札幌市の動きを最初に説明する。

(1) 札幌市の生物多様性の現状

自然環境の概要(人口の概要、市域面積、高度、代表的な生態系(レッドリスト掲載種、指標種、外来種)、札幌市の地理的特徴、札幌の四季の魅力)生物多様性とは(3つの多様性(生態系、種、遺伝子)、生物多様性の喪失とは、自分事と捉えてもらうための記載、生物多様性に関する基本認識)

- ▶ 「荒地」は石狩湿原と明記し、都市が抱える開発と保全の課題について捉えるため、湿地の存在を見つめられる記載とすべき。
- ▶ 例としてあげている種名が札幌地域における例として適切かどうか、地域性を考慮して選択した方がよい。
- ▶ 特記すべき種として、種の保存法で指定され市内でも生育が知られている種を入れた方がよいか検討。
- ▶ 種の絶滅速度の視点
⇒種の絶滅速度が加速している現状を知り、現状を変えるために、札幌市民のライフスタイルがどのように関わって、市民単位で何ができるのかを考え、課題解決のための実行を促す。
- ▶ なぜ生物多様性が喪失しつつあるか、その問題について説明。
- ▶ 「絶滅」という表現の意味を明記。(自然絶滅と人間活動の影響による絶滅は意味合いが異なるため補足説明が必要)
- ▶ 急激なスピードで都市開発をしたという歴史は札幌の特徴である。

(2) 国の動き

- ▶ 国家戦略との関わりについては重要ではあるが、札幌市としてどうしたいのかを記載してほしい。
- ▶ 国としての課題と札幌市としての課題は違うはずなので、課題の抽出が重要。進行管理も考えたうえでメリハリをつけて整理したほうが良い。

(3) ポスト 2020 生物多様性枠組と生物多様性に関する世界の状況(今後の状況を見て記載)

2 これまでの生物多様性さっぽろビジョンに基づく取組の進捗管理状況

- ▶ これまでのビジョンに基づく取組の進捗状況について、指標及び目標値は目標年に関する数値の記載だけでよいのではないかと。目標達成に向けて何をしてきたのかを具体的に書いてほしい。

(1) 取組内容及び指標の確認方法

(2) 指標に係る目標値の達成状況

3 生物多様性さっぽろビジョン改定の目的

(1) 目標年次 2020 年度として見直し

(2) 国家戦略の改定

(3) ビジョン運用により認識した課題の解決

- ▶ 課題の洗い出しが足りていない。
- ▶ 生物多様性との関わりを記載する。
- ▶ 再生可能エネルギーを増やす方向性との間にジレンマが発生し、生物多様性とトレードオフの関係にあることについて考え方を整理。
- ▶ 自然環境の管理も自然保護や生物多様性の保護・保全に大きく関わる。
- ▶ 農村環境や人との関わりの中で生物多様性を高める活動が大事。
- ▶ 森林伐採や土地改変が川の下流に影響し、隣接地域への動物の流入につながることを土地所有者は考慮すべき。
- ▶ 放流事業や河川域を利用した事業については魚類学会、生物多様性保全を目指した放流ガイドラインに基づいた管理を目指すのが望ましい。遺伝的攪乱、外来種対策において必要な配慮として普及啓発すべきであり、昆虫や両生類などもこれに準じた配慮が必要。
- ▶ 生物多様性の説明の中で生態系、種、遺伝子についてあげられており、例えば大きな視点で生態系であれば土地利用の変遷などを記載しても良いのではないかと。また、種単位で見ると、遺伝子レベルで整理することは必要である。
- ▶ 生態系の変化（例えば森林の面積や草原が減っている）について、どういったことがあるのか確認して記載してほしい。
- ▶ 再生可能エネルギーと生物多様性がトレードオフの関係にあるという記載があるが、生物多様性保全のためには再生可能エネルギーを増やさないとならないというのが本来の考え方ではないか。
- ▶ ゾーンをまたがっている課題や特定のゾーンについて、ビジョン策定時から急激に変化して対応が必要になったこと、以前から残っている課題などをあげても良いのではないかと。課題について漏れがないような記載をしてほしい。
- ▶ レッドリストについての課題の記載が必要で、調査できていないので情報が少ないということを課題としてはっきり書いたほうが良いのではないかと。もっとみんなが調査をして情報を集める努力をしようということが必要ではないか。
- ▶ 純粋に生態系を考えたときに、危機的であるという学術的な課題と、市民生活を考えたときの課題とに分類してはどうか。
- ▶ 札幌市の特徴として人口が多いがゆえに、土地利用が生態系に影響を大きく与えていることが課題。河川であれば、川の水をダムや水道などで相当量使用しているので、河川の魚等への影響があり、その課題解決には利害関係者の協力がなければ改善ができないので、そういった調整や、協力が必要であることを記載したい。

1 生態系、自然環境に関する課題

外来種の侵入、レッドリスト掲載種の調査不足による生息状況の情報不足、遺伝的攪乱に関する認識不足、開発等による生態系への影響

2 市民生活、社会環境に関する課題

保全活動が十分できない地域が存在すること、野生動物とのあつれきの増加（ヒグマ、エゾシカ、キツネ等）、気候変動への対策、人口減少による担い手不足の懸念、再生可能エネルギーの推進にあたって生物多様性保全への配慮が必要、学校教育と連携した普及啓発及び人材育成の不足、様々な世代への生物多様性の理解度の不足、あらゆる主体との連携不足

第3章 ビジョンの位置づけ

- 1 生物多様性基本法第13条に基づく札幌市の生物多様性地域戦略としての位置づけを記載
 - 2 国家戦略、道計画との位置づけ、札幌市の関連計画との位置づけ(関係図)
- ※他部局との事業との関わりなどを記載

- ▶ 国家戦略、道計画との位置づけ、内容の関係、札幌市の関連計画（都市計画マスタープラン、みどりの基本計画、都市農業ビジョン等）との関係を詳細に記載。
- ▶ 札幌市の他計画や他部局での事業との親和性を高めていくことが重要、検討段階から他部局との調整が必要。
- ▶ 改定しながら長く使えるものに。
- ▶ 先進的な事例や取組、日本国内でリードできるビジョンに。



図1 条約、法令、条例と生物多様性さっぽろビジョンの関係性

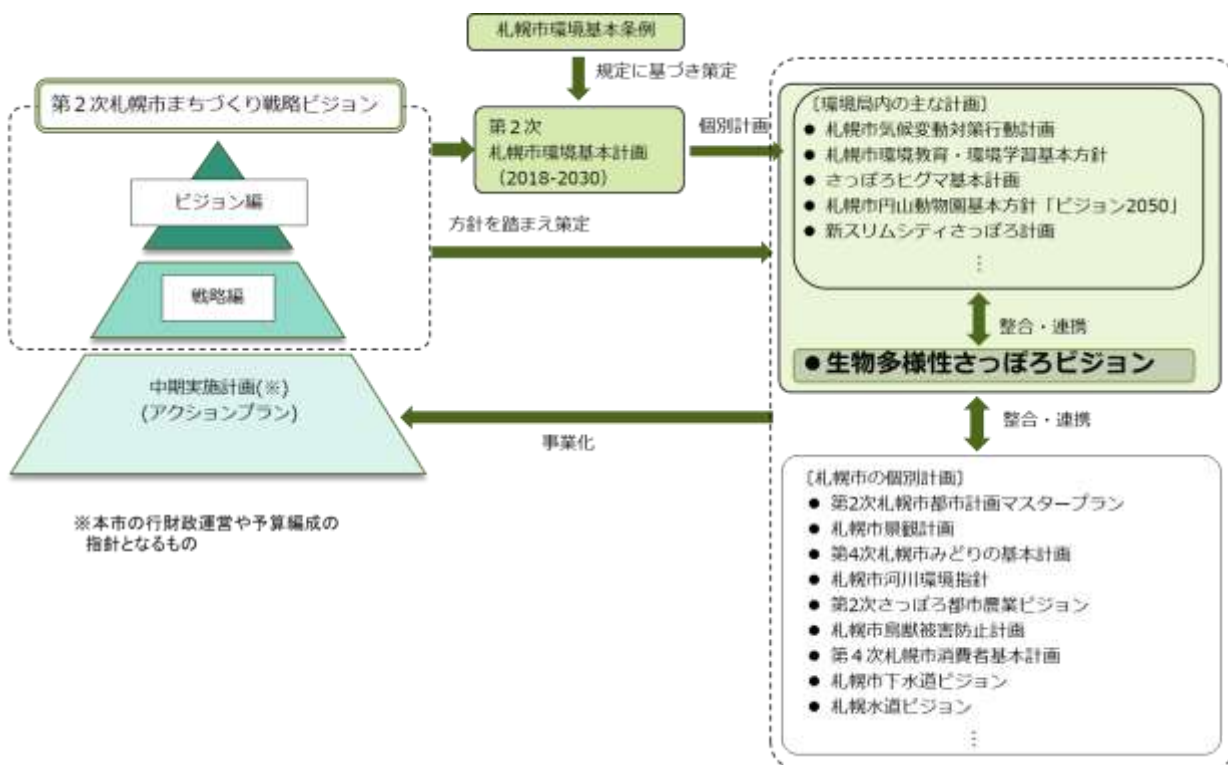


図2 札幌市の各部門計画と生物多様性さっぽろビジョンの関係性

第4章 理念

※現行理念は「北の生き物と人が輝くまち さっぽろ」

- ▶ ビジョンのタイトルにポジティブなメッセージがあると良い。
- ▶ 「さっぽろビジョン」というのは何かと聞かれた時に題名で示ことができるとよい。
- ▶ 特徴の説明があつての理念。
- ▶ 理念の性格付けをしっかりとる。

第5章 目標年次及び対象区域

目標年次は 2050 年とする。2030 年頃を目途にビジョンの進捗状況や社会情勢などを勘案して見直しを行う。対象区域は札幌市内全域とし、市域だけで解決できない取組は周辺自治体との連携を図る。

- ▶ 目標年についての再考。（気候変動は 2030 年、ライフスタイルの変化の面では 2045 年問題があり、愛知目標に準拠して 2050 年の設定で良いか。）
- ▶ 道や他都市との広域的連携の視点（自然に行政の境界線は関係ない、意見交換からでも。）
⇒周辺自治体、川の流域単位での活動、国内外の地域と連携して取り組むこと
- ▶ 周辺自治体との連携、情報共有が非常に重要、どういうメッセージを発するか考えることが必要。
- ▶ 広域での取り組みの可能性を検討する。
⇒自然に行政の境界線は関係ないため、広域で考えたほうが課題解決できることがあると思う。
- ▶ 表題に対象区域と書かれていると、ゾーニングとの違いがわかりにくくなる。

第6章 ゾーニング

ゾーン設定については、山地ゾーン、山麓ゾーン、市街地ゾーン、低地ゾーン、各ゾーンをつなぐ生態系として整理し、修正箇所を記載する。

ゾーニング図には、法令等による保全状況、札幌市の関連計画図、生物多様性の観点から重要な地点、外来種の分布状況等を合わせて表記するとともに、区単位で身近な自然やがわかるように工夫して作成し、GIS データを Web 上に公開して詳しく見えるようにする。

- ▶ 「ゾーニング」の設定は最も重要。
- ▶ 30by30 の OECM は札幌に向いており、目的数値を出しやすいのでゾーニングの中にどう入れ込むかが課題。
- ▶ 市街地ゾーンは業務系と住居系、都心と郊外と分けてもよいのでは。
- ▶ 緑保全創出地域との連動も考えてはどうか。
- ▶ ゾーニングに基づく法令の規定を整理しておく。
- ▶ 解像度が上がるのであれば、グラデーション表示も検討。
- ▶ 野生動物遭遇地域のように遭遇頻度がわかるものがあるとよい。
- ▶ 市区别的地図を作り、学校等でも参照できるようになるとよい。
- ▶ 身近な人に、法律適用外でも大事な地域がわかるようにする。
- ▶ WEB GIS 活用の検討。
- ▶ 低地ゾーンや山麓ゾーンについて、元々あった土地の特徴がなくなっているのなら、市街地ゾーンとして整理したほうがよい。
- ▶ 市街化調整区域の中にも自然が残っている場所が点在している。その中にも危機的な状況になっている場所、例えば篠路福移湿原などでは保護活動などが行われている。ギャップがあるところに対応してほしいのと、優先順位をつけて札幌市として保全してもらえると良い場所である

- ▶ 市街地にも貴重な自然が点々とあるのが札幌の市街地の特徴であるということを、ゾーニングの説明に記載すべき。
- ▶ 一人一人が生物多様性の問題を考えた場合、自分が住んでいる地域の周りが具体的にどんなところなのかが見えると良い。緑地や保全地域がある、指標種がたくさんいる地域や、札幌市が注目している地域をクローズアップすると、把握しやすくなる。
- ▶ 市街化調整区域のうち、完全に開発行為が行われないわけではなく、モエレ沼公園やさとらんの周辺においては一定の条件を満たせば公園が周囲になるので利便性を高めるための一定の開発行為が可能となっているという方針があるので、都市計画課にも確認したほうがよい。
- ▶ 市街地ゾーンと山麓ゾーンの境目がホットスポットとして重要ではないか。孤立したエリアで自然が残っている公園及び緑地、孤立林が重要となっており、孤立しているが飛び石のように移動してくる動物や残っている植物があり、そういったところが各ゾーンをつなぐ生態系に該当するのではないか。
- ▶ 法令等により保護されている地域であっても多様性が高いとは限らない。実際に生物の調査がされておらず、情報が無い地点も多いと考えられる。保護地域だから安全ということにはならないという認識が必要。
- ▶ 自然の情報以外にも駅や区役所、路線図なども表示できたほうがよい。
- ▶ 生物の情報については 1km メッシュが見やすくてよい。
- ▶ 自然草原や湿原を重要な地点と考えてもよいが、湿原はホットスポットではない。重要な生態系であるが生き物の種数は減るため注意が必要。
- ▶ 種数が多いことが多様性ということを示すわけではなく、湿地は湿地にしか住めない生物がいるということを認識した上で整理する必要がある。
- ▶ 本来は生態系ごとの生物種数が明らかだとよいが、札幌市全体での調査が十分されていないと思われるため、そのような中で一つの指標という但し書きをしたうえで、指標種の種数を示したほうが良い。
- ▶ 風致地区には区分があり、緑化の定めがある住宅地及び運動公園については、法令等による保全がされている地域に加えるべきか検討を要する。
- ▶ 山麓ゾーンの市有林と私有林について、天然林化するエリアと人工林として維持していくエリアに区分しているので、整合性を考えたほうがよい。
- ▶ 山地ゾーンの保安林についても種類によって保全の度合いが異なるので、そのことを認識できるような記載の工夫が必要。

第7章 目標(あるべき姿)

ゾーンごとの課題及び 2050 年のあるべき姿を記載

ゾーニング図から、法令等による保全地域とそれ以外の地域に分けて目標(あるべき姿)を設定する

- ▶ 具体的に何を保全し、どのような方法で生物多様性の都市としていくのか目標を提示すべき。
- ▶ 望ましい姿はゾーンごとに示すのに加え、主体や生態系サービスごとに示すのはどうか。
- ▶ 目標と施策の関係を明確にすべき。
- ▶ 低地ゾーンの説明のところに湿地についての記載がないが、草原と湿地はそれぞれ大事な環境であるので、併せて記載したほうがよい。
- ▶ 環境自体が減っているということを記載しておくことが重要で、特に低地ゾーンで湿地が減っているということは大きな課題と考えられる。
- ▶ 野生動物とのあつれきについては継続的な対策が必要という記載があるが、具体的にどういう対策なのかをイメージできるように、ヒグマ基本計画を踏まえた内容にしたほうがよい。
- ▶ 必要な保全措置という記載があるが、法的な手段により保全することはできないのではないか。

- ▶ 「よく理解されている」という表現はどのような状態なのかわかりにくいので、「理解する機会があり続ける」といった表現とし、継続的に伝え続けていることを示してはどうか。
- ▶ 各ゾーンの望ましい姿に、例えば市民が生物多様性の基本的な理解をした上で、どういった行動を取るのか、企業はどういったことに配慮して企業活動をするのかという記載をしてはどうか。
- ▶ 第7章の目標は、ゾーンごとの目標（あるべき姿）に特化して記載したほうがよい。

第8章 施策を進めるにあたっての基本方針

- 1 様々な立場の人々と連携・協働して生物多様性の保全を進める。
- 2 生物多様性への理解を深め、将来に伝えていく。
- 3 札幌市は人口約 197 万人の消費都市であり、人間活動の影響が大きいことを踏まえて札幌市内だけではなく、地球規模で生物多様性に配慮した取組を行う。

- ▶ 保全だけではなく保護の観点も必要。
- ▶ 方針を増やし過ぎると混乱してしまう。

第9章 指標に基づいた目標を達成するための施策

現行ビジョンでは4つの施策として「理解する」「協働する」「継承する」「活用する」に分類していたが、改定後は施策の方向性として事業の内容別に整理し、具体的な施策を以下に分類して取り組むこととする。

1 保全事業

生物多様性保全のための事業を展開し、持続可能な利用につなげる施策とする。

なお、保全事業には調査事業（市内の動植物の生育・生息状況の確認、モニタリング、保全事業に必要な基礎情報の収集等）を含む

例）

- (1) レッドリストの見直しと掲載種の保全事業の検討と実施
- (2) 自然共生サイトを活用した保全対象の拡大
- (3) 外来種対策（対策の考え方を明記）
- (4) 野生鳥獣とのあつれき対策
- (5) 防災、減災につながる自然機能の活用
- (6) 市民参加型指標種調査
- (7) 自然環境調査
- (8) 協働型生き物調査
- (9) 動植物データベースの活用

保全事業

- (1) レッドリストの定期定見直し、掲載種の保全事業の検討、実施等

▶ 絶滅危惧種保全の仕組み

⇒レッドリスト掲載種は、全ての種でレッドデータブックの作成をするのが理想。市で特に重要な種などについて、円山動物園や札幌市豊平川さけ科学館などと連携し、積極的に情報を集めて保全に貢献する方法を検討する必要がある。

▶ 種の保存法の遵守

⇒ネット販売目的の乱獲防止、野生の動植物を安易に購入しない、終生飼育について浸透させたい。

▶ レッドリストに札幌の固有種ではないものや情報不足の魚種がいるため、情報を見直す。

▶ 希少種の具体的な保全方法

⇒市としての希少種の保全策が明確化されていないため、具体的に記載すべき。

▶ 希少種を市民に知ってもらいたいため、公表しながら保全していく方法が無いのか検討したい。

▶ 現ビジョンに「将来的には自然産卵によってサケの回帰が維持されることが理想」とあり、具体策を盛り込みたい。

(2) 自然共生サイト（仮称）を活用した保全対象の拡大

▶ 30 by 30 の視点

⇒市として OECM も含めた自然保護地域と民間の土地との連携をどう進めるのか、考え方や方針を示す。

▶ OECM についての視点

⇒緑豊かな都市公園は OECM の適地。管理局と積極的に保全を進めるべき。

▶ 生息地の保護・保全地域拡大と維持

⇒生物多様性の低下を引き起こす直接的要因として最も大きいのは土地利用の変化。生物多様性の維持のため、多様な生物が生息する多様な条件の生息地が必要であり、開発されやすい都市部だからこそ保護・保全地域の拡大と維持することを取り入れる必要がある。企業、市民団体、農業者による緩やかな保護区（OECM）の推進と同時に、自治体として保護・保全するエリア回復・拡大を積極的に目指すことがビジョンとして欠かせない。

▶ 最新の正確な調査データと照らし合わせる。

▶ 報告書に記載されていない情報を拾い上げる。

▶ 世界の動きについての記載をする。

(3) 外来種対策

▶ 外来種という言葉の認知度は上がったが、正しく理解するための普及啓発は必要。

▶ 外来種の譲渡と駆除に対する考え方の違いから起こる、非難等を改善する教育が必要である。

▶ 生態系や人間生活への被害状況から外来種を区分し、具体的な対策を示す。

▶ 時代の変化に対応する仕組みづくり。

⇒特定外来種が追加された際、リアルタイムで変化に応じた対応ができるようにする必要がある。

▶ 公的な場所の植樹については在来樹を植樹対象とする動きを進める。

▶ ヒグマ、ヒキガエル等について、道外に対して北海道の生態系や野生動物と人の関わりなど理解してもらうため市や道の取組を発信する必要がある。

▶ 10 年で外来種の考え方や種毎の情報が更新されているので追加修正が必要。

▶ 外来生物がすでに入り込んでいるところを元に戻す、保全していくための考えも入れるべき。

▶ 外来種に対する認識や北海道と本州の違いについての記載が必要。

▶ 札幌市で外来種ワースト 30 のようなリストを作成する。

(4) 野生鳥獣とのあつれき対策

▶ one health アプローチ

⇒野生動物との接し方について餌付けや飼育など人獣共通感染症、動物の感染症、動物側の栄養的問題の注意喚起。動物の行動変容をさせる事について記載が必要。親を対象とした教育も必要。

▶ 野生動物のペット化による負の影響

⇒希少動物の輸入はその種の絶滅を助長し、外来種の問題にも繋がる。また、在来の野生動物への餌付けはその生物の生態を変化させ、種の生存を脅かす可能性があることが指摘されている。

▶ ヒグマ、ヒキガエル等について、道外に対して北海道の生態系や野生動物と人の関わりなど理解してもらうため市や道の取組を発信する必要がある。

▶ 河川での草の伐採において、ヒグマ対策には効果があったがマムシやアオダイショウが減少したことから、一面のみを見た対策の場合は影響を評価することが必要。

▶ 人とのあつれきが大きい野生動物との共存

⇒市民に対する啓蒙活動だけでなく、耕作放棄地や緑地の植生管理のあり方や緑を増やす活動の進め方など、野生動物と距離をとるための方策を示す。

▶ 共生（ボーダーレス化）の考え方

⇒生物多様性や保全に配慮したまちづくりは野生生物を身近に感じられる一方で、東区でのヒグマによる人的被害のような「安心して生活できる都市の推進」に影響するような事例も起こり得る。野生生物の生息域と都市生活との緩衝地帯の現状把握など、「共生」について専門家の意見も反映して現実的な検討が必要。生物多様性や共生にも色々な考え方があることを伝えていく事が大事。

▶ 学校教育、博物館・動物園・水族館など、あらゆるところで生物多様性とつなげ、野生動物との付き合い方に触れていく。

▶ 人間と野生動物の健康に関わりがあることを伝える。

▶ 餌付けについて公園では禁止行為と取り扱っているので、ビジョンの中でも謳う。

▶ 在来種でありながら都市に依存する生き物が札幌には多いので、議論をして、ビジョンで対応を定めていくこと。

▶ ヒグマ基本計画が改定予定なので、改定内容を記載する。

(5) 防災、減災につながる自然機能の活用

▶ Eco-DRR「生態系を活用した防災・減災」の視点（地域の価値を高める効果も期待）

▶ 防災の視点

⇒生物多様性と防災を一緒のベースで考え、自然はコントロールできないので自然との共存のために保全が必要である事を盛り込む。

(6) ～ (9) 調査事業、動植物データベース

▶ 動植物データベースを知らない専門家への周知を検討。

▶ データベース以外に、世界中で利用されている動物観察のアプリの位置づけをビジョンの中で整理・検証していく事が課題。

▶ 情報不足の種に関する情報収集

2 普及啓発事業

(1) 普及啓発方法

各種イベント等の活用、学校教育との連携事業、環境教育、各種普及啓発ツールの作成、活用など

(2) 普及啓発内容の例

生物多様性の価値及び重要性、生物多様性に配慮したライフスタイルの普及による環境負荷低減(気候変動対策、地産地消の取組推進、食品ロス削減、海洋プラスチックの削減など)、歴史的文化的遺産の継承、自然とのふれあいの場創出、身近な公園、緑地などの利用、自然環境に配慮した商品の選択、環境金融の促進等

- ▶ 生物多様性の理解度を高めることは重要。
 - ▶ 全ての市民が深く知り・関わることは難しいが、大事なポイントを知ることができるのではないかな。
 - ▶ コロナ禍による自然派志向の高まりでキャンプ等を始めた方々に、生物多様性を学ぶ機会を創出できるとよい。
 - ▶ 野生動物に対する市民のモラル向上。希少種のネット取引や旬の魚を食べることに疑問を持ってほしい。
 - ▶ フェアトレード商品の選択するのは効果的であるため、認証ロゴマークを例として取り上げる。
 - ▶ 「自然に優しい」発電施設の環境破壊は影響が小さくない。発電所の増加より節約意識が重要。
 - ▶ 遺伝子組み換え作物、ゲノム編集食品に対する解説や対策を示す必要がある。
 - ▶ 小中学校の教本への明記（生物多様性の魅力、身近な自然への興味関心、課題の認知）
- ⇒市内の小中学校で確実に取り上げてもらうため、教育委員会と連携し、若い世代から広げる、生物多様性関係書籍の活用、飼育動物の適切な飼い方の周知
- ▶ 倫理的（エシカル）消費の視点（ライフスタイルの見直し、環境や社会に配慮した商品やサービスの生産・選択）
 - ▶ 持続可能な食料生産と消費（有機農業の推進、過剰な肉食の見直し、環境に配慮した漁法、養殖魚の選択）
 - ▶ 生態系サービスの経済的側面の評価が必要。
- ⇒生物多様性の保全や利用に際して生態系サービスの経済的側面を評価することで、保全の必要性の理解を助ける。
- ▶ 食や消費・廃棄、ペットなどの生活と生物多様性は繋がっている事を意識してもらう。
 - ▶ イベントを企画・実施する方たちへ普及啓発を行い、生物多様性に関わるものにつなげていく。
 - ▶ 市民に普及させるために、動物園の飼育スタッフなどにもビジョンを周知する。
 - ▶ 環境や野生動物に関するカリキュラムがある学校にアプローチしていく。
 - ▶ 教育委員会にカリキュラムや副教材に取り込んでもらう。
 - ▶ 学校の生物多様性への取り組みを調査する。
 - ▶ パンフレットを作るなら回覧や広報と連携して幅広く見られる工夫をする。
 - ▶ Twitter（カッコー先生）のつぶやきを一般の方が興味をひく内容にする。

3 生物多様性に配慮した取組(例)

- (1) 各主体(札幌市、市民、企業、市民団体等)による行動実践(保全事業への参加、環境配慮商品の利用等)
- (2) 企業や施設との連携事業(生物多様性さっぽろ応援企業、団体登録、生物多様性さっぽろ活動拠点ネットワークとの連携事業等)

- ▶ 札幌市は全国初の「動物園条例」の制定を目指しており、中心拠点となる円山動物園の取組を大きく取り上げるべき。
- ▶ 「環境中間支援会議・北海道」の取り組みを事例として紹介し、「協働」全体の底上げにつなげる。
- ▶ 周辺自治体との連携、情報共有が非常に重要、どういうメッセージを発するか考えることが必要。
- ▶ 世界的に生物多様性にコミットできない企業は投資の対象から落ちていく流れがあり、札幌の企業に対して情報提供をビジョンの中で行わなければならない。
- ▶ 研究機関、市民団体、博物館などの施設、大学、学校、企業との連携によるオープンデータの活用とデータのオープン化(科学的根拠に基づいた自然保護・保全計画の立案、実施、管理をするための材料の提供)

第10章 ビジョン推進の体制と役割分担、進捗管理

- 1 札幌市、市民、企業、市民団体それぞれの役割、特に札幌市の各部局の役割の明確化と連携について具体的に記載する。

- ▶ 札幌市の他部局が何に取り組むのかを明確化する。
- ▶ 協働の視点(すべてのセクター、分野、地域との協働が欠かせない。)
- ▶ ESG投資、TNFDの視点。
⇒温暖化を含め企業の姿勢が問われるため、企業の役割について明記すべきではないか。

2 進捗管理(指標と2030年までの目標値、2050年最終目標値)

- (1) 指標とモニタリング方法を設定。
- (2) 2030年までの目標値を設定し、モニタリング方法を記載する。
- (3) 2050年までの目標を設定。

- ▶ 指標や目標は、札幌を特徴づける生物多様性を保全するため何が必要か再検討し、見直しが必要。
- ▶ 大半がアンケート調査に頼っているため、施策に関連する具体的な指標を設定すべき。
- ▶ 「札幌ならでは」を伝える、札幌市特有のわかりやすい目標設定を。(優先度の高い項目に絞る)